資料１

配偶者暴力等被害者支援緊急対策事業 結果概要（暫定版）

内閣府男女共同参画局

「パープルダイヤル - 性暴力・ＤＶ相談電話 - （0120－941-826)」は、2011 年 2 月 8 日から 3 月 27 日まで 48 日間にわたって実施された。実際の相談は「フリーダイヤル 0120－941-826」にアクセスのあったものを、「女性相談」「急性期の性暴力被害相談」「男性相談」「外国人相談」の 4 つの回線に案内し、相談者が選んだ相談窓口で相談を行った。

なお、本結果概要は、2 月 8 日から 3 月 7 日までの 4 週間分の相談対応表を統計的に処理したものであり、中間的なものである。

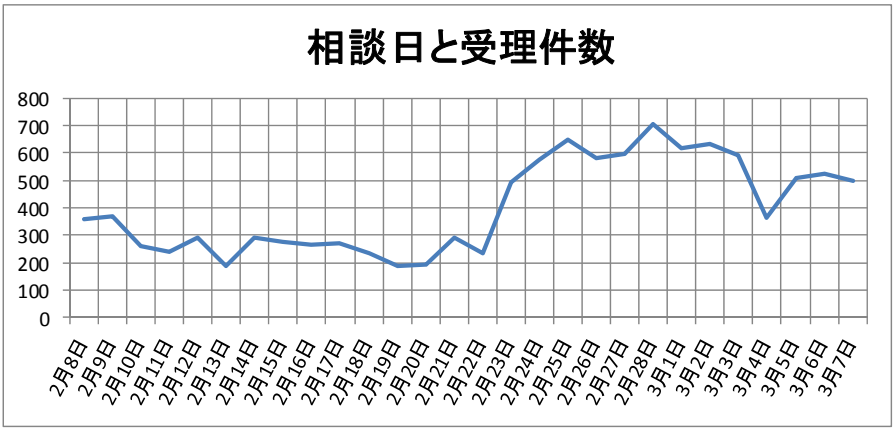
１　全相談件数と概要

○　2 月 8 日から 3 月 7 日までの全相談受理件数は、11,314 件となった。

○　全受理件数のうち、急性期相談と女性相談で受理件数の 9 割近くを占める。

	相談件数	%	内訳	相談件数	%
女性相談	8,780	77.6	ＤＶ	5,196	45.9
			ＤＶ以外	3,584	31.7
急性期の性暴力被害相談	1,214	10.7	（急性期の性暴力被害相談）	1,214	10.7
男性相談	776	6.9	ＤＶ	174	1.5
			ＤＶ以外	602	5.3
外国人相談	544	4.8	ＤＶ	158	1.4
			ＤＶ以外	386	3.4
合計	11,314	100.0	合計	11,314	100.0

○　相談日別の受理件数をみると、テレビスポット CM の放送が始まった 2 月 23 日以降、相談件数が増加している。



２　女性相談の集計と分析

女性相談の受理件数は、8,780 件で、うち「ＤＶ」は 5,196 件、「ＤＶ以外」は 3,584 件となった。.

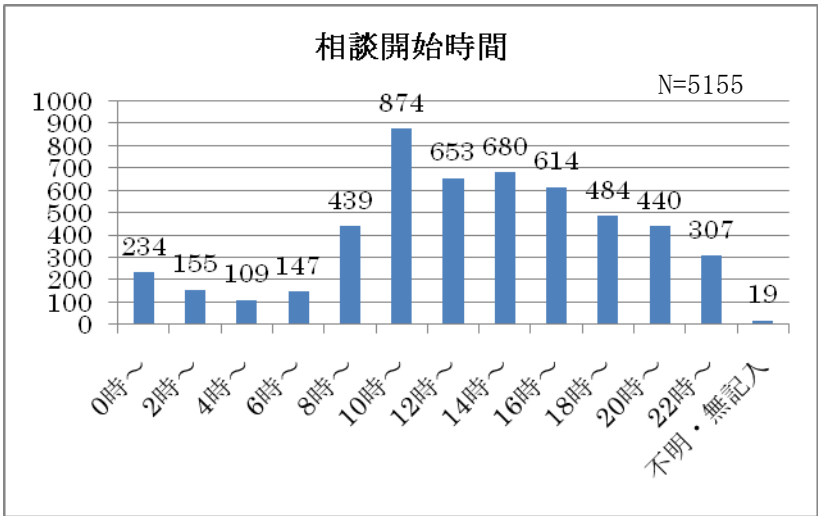
	全体		ＤＶ		ＤＶ以外	
	件数	%	件数	%	件数	%
相談	7,836	89.2	5,155	99.2%	2,681	74.8%
無言・いたずら・苦情等	944	10.8	41	0.8%	903	25.2%
合計	8,780	100.0%	5,196	100.0%	3,584	100.0%

（１）ＤＶ相談

「ＤＶ相談」総件数 5,196 件のうち、「無言・いたずら・苦情等」を除いた相談件数は、5,155 件となった。以下は、相談のみの件数（5,155 件）について分析する。

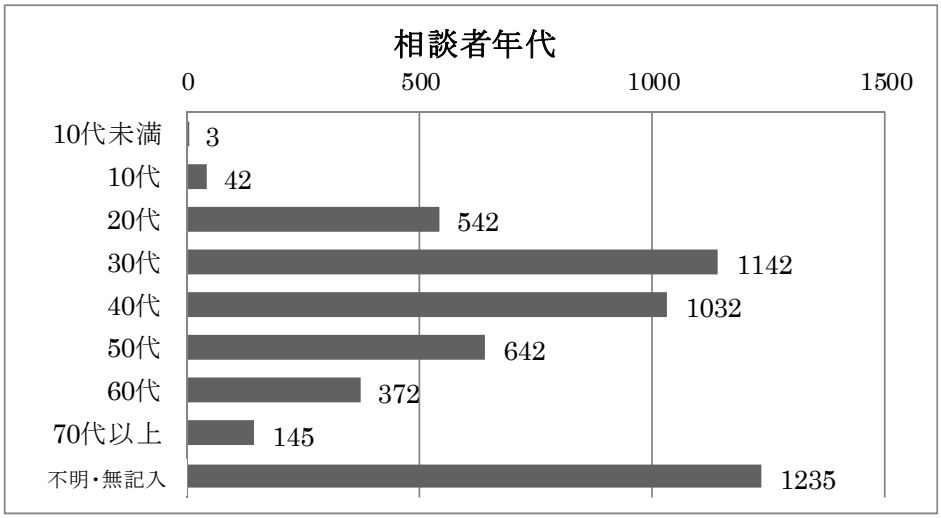
相談開始時間をみると、「10 時～」から「16 時～」が 600 件以上で推移し、全体の半数以上となっている。

0 時～	234	4.5
2 時～	155	3.0
4 時～	109	2.1
6 時～	147	2.9
8 時～	439	8.5
10 時～	874	17.0
12 時～	653	12.7
14 時～	680	13.2
16 時～	614	11.9
18 時～	484	9.4
20 時～	440	8.5
22 時～	307	6.0
不明・無記入	19	.4
合計	5,155	100.0



相談者の年代は、「30 歳代」をピークとして、「10 歳代」から「70 歳代以上」まで幅広い年代から相談が寄せられている。

	度数	%
10 代未満	3	.1
10 代	42	.8
20 代	542	10.5
30 代	1,142	22.2
40 代	1,032	20.0
50 代	642	12.5
60 代	372	7.2
70 代以上	145	2.8
不明・無記入	1,235	24.0
合計	5,155	100.0



主訴は、「話を聞いてほしい」が 2,385 件（46.3%）で最も多く、次いで、「情報がほしい」1,678 件（32.6%）、「来たるべき時に備えて準備したい」545 件（10.6%）、「今すぐ避難」が 93 件（1.8%）であった。

	度数	%
今すぐ避難	93	1.8
来たるべき時に備えて準備したい	545	10.6
情報がほしい	1,678	32.6
話を聞いてほしい	2,385	46.3
その他	38	0.7
不明・無記入	416	8.1
合計	5,155	100.0

加害者との関係は、「配偶者・元配偶者」が 4,050 件（78.6%）で、「事実婚の相手・元事実婚の相手」は 234 件(4.5%)、「交際相手・元交際相手」は 751 件(14.6%)であった。

加害者	度数	%
配偶者・元配偶者	4,050	78.6
事実婚の相手・元事実婚の相手	234	4.5
交際相手・元交際相手	751	14.6
その他	69	1.3
不明・無記入	51	1.0
合計	5,155	100.0

暴力の様相は、「精神的暴力」が最も多く、続いて「身体的暴力」、「経済的暴力」、「性的暴力」、「社会的暴力」の順となっている。

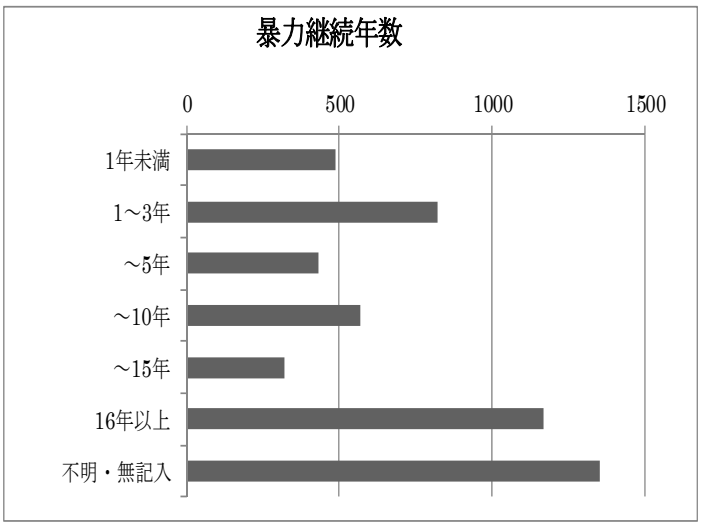
	身体的		精神的		性的		経済的	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
なし	2,316	44.9	971	18.8	3,987	77.3	3,481	67.5
あり	2,591	50.3	3,936	76.4	920	17.8	1,426	27.7
不明・無記入	248	4.8	248	4.8	248	4.8	248	4.8
合計	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0

	社会的		在留資格利用		文化的		その他	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
なし	4,440	86.1	4,895	95.0	4,902	95.1	4,617	89.6
あり	466	9.0	12	0.2	5	0.1	287	5.6
不明・無記入	249	4.8	248	4.8	248	4.8	251	4.9
合計	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0

※ 暴力の様相は、本事業における分類。
※「経済的」暴力：【例】生活費を渡さない。
※「社会的」暴力：【例】実家や友人とつきあうのを制限する。電話や手紙をチェックする。
※「在留資格利用」による暴力：【例】（外国人被害者の場合）在留資格の取得・更新に協力しない。
※「文化的」暴力：【例】（国際結婚の場合）配偶者の母国の文化を否定する。自国の文化を強要する。

暴力をふるわれた継続年数は、「16年以上」が1,168件（22.7%）で最も多い。10年～15年のものと合わせると、相談者の3割近く（28.9%）が10年間以上暴力を受けている。

	度数	%
1年未満	489	9.5
1～3年	824	16.0
～5年	432	8.4
～10年	568	11.0
～15年	321	6.2
16年以上	1,168	22.7
不明・無記入	1,353	26.2
合計	5,155	100.0



これまでの支援経験について、「なし」が 40.9%で、「あり」の２倍近くとなった。

支援経験	件数	%
なし	2,110	40.9
あり	1,044	20.3
不明・無記入	2,001	38.8
合計	5,155	100.0

相談により行った支援内容は、「リファー先の紹介」が最も多く、「傾聴」、「情報提供」、「心理教育」、「安全確認」、「付き添い支援紹介」の順となった。

	傾聴		安全確認		心理教育		情報提供	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
なし	2,914	56.5	4,163	80.8	4,029	78.2	3,300	64.0
あり	2,099	40.7	849	16.5	984	19.1	1,713	33.2
不明・無記入	142	2.8	143	2.8	142	2.8	142	2.8
合計	5,155	100.0	5,155	100.0	5155	100.0	5155	100.0

	リファー先の紹介		付添支援紹介		他回線案内・転送		その他	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
なし	2,366	45.9	4,984	96.7	4,994	96.9	4,906	95.2
あり	2,648	51.4	29	0.6	19	0.4	106	2.1
不明・無記入	141	2.7	142	2.8	142	2.8	143	2.8
合計	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0	5,155	100.0

紹介したリファー先は、「男女共同参画センター」915 件（34.6%）、「配偶者暴力相談支援センター」591 件(22.3%)、「法テラス」281 件（10.6%）、「配偶者暴力被害者支援民間団体」181 件（6.8%）「警察相談窓口」135 件（5.1%）となっている。

（２）ＤＶ以外の相談

「ＤＶ以外」の総件数は、3,584 件となった。総件数 3,584 件のうち、「無言・いたずら・苦情等」を除くと 2,681 件となる。

相談内容は、「強姦・強制わいせつ」が最も多く、次いで「セクハラ」「ストーカー行為」「人身取引となっている。

「その他」が一番多いが、「その他」とは暴力の相談に当てはまらなかったもので、夫婦や近隣などの対人関係についての悩み、心身のしんどさなどがあった。

	度数	%
強姦・強制わいせつ	743	27.7
人身取引	4	0.1
セクハラ	132	4.9
ストーカー行為	64	2.4
その他	1,738	64.8
合計	2,681	100.0

以下は、強姦・強制わいせつ、人身取引、セクハラ、ストーカー行為のみの件数（943 件）について分析する。

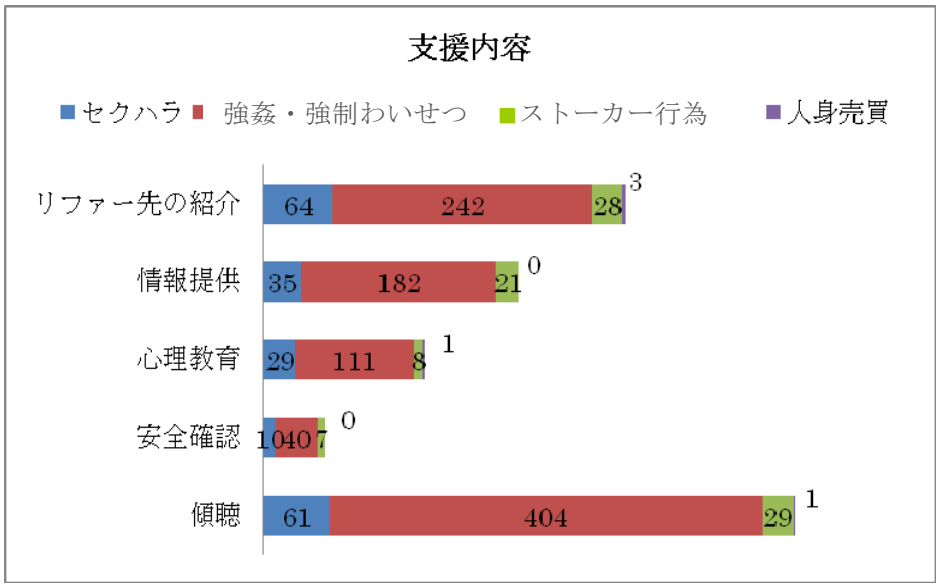
加害者との関係は、パートナー、家族、友人、その他「知っている人」が 80.9%となり、「見知らぬ人」（7.4%）を大きく上回った。

加害者との関係	件数	%
パートナー	47	5.0%
家族（①）	248	26.3%
友人	50	5.3%
見知らぬ人	70	7.4%
その他（②）	418	44.3%
不明・無記入	110	11.7%
合計	943	100.0%

① の内訳	件数
親（義理含）	166
娘・息子（義理含）	16
兄弟（義理含）	37
上記以外の親族	31

② の内訳	件数
職場関係者	151
学校関係者	45
地域の関係者	36
上記以外の知人・関係者	137

支援の内容は、「傾聴」が最も多く、「リファー先の紹介」「情報提供」と続いた。この他の支援内容として、「付添支援紹介」1 件、「他回線案内」19 件、「その他」20 件があった。



リファー先は、「男女共同参画センター」が一番多く 88 件、以下、「性暴力被害者支援民間団体」33 件、「カウンセリングルーム等」29 件、「警察相談窓口」28 件と続いている。

２　急性期の性暴力被害者相談の集計と分析

1 年以内の性暴力被害の受理件数は 1,214 件となり、このうち 302 件（24.8%）が「強姦・強制わいせつ」となった。

また、「無言・いたずら・苦情等」が多く、実際の相談は半数となった。

内容	度数	%
相談	636	52.4%
無言・いたずら・苦情等	578	47.6%
合計	1,214	100.0%

相談のうち、強姦が 200 件（31.4%）、強制わいせつが 102 件（16.0%）となっており、以下は、強姦・強制わいせつ 302 件について分析する。

相談時間は、22 時から翌 10 時の間での相談が 40.4%となり、深夜・早朝の割合が高い傾向がある。

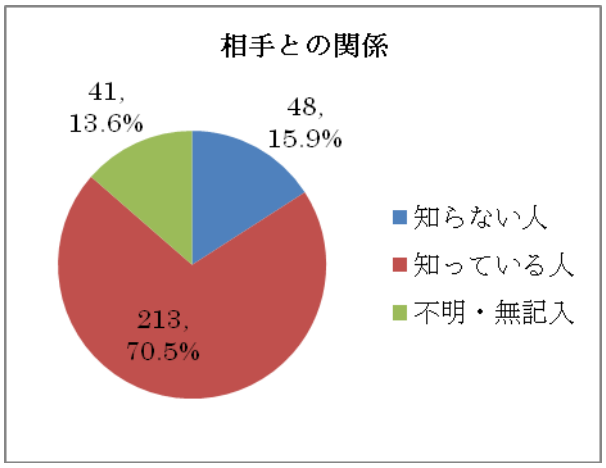
	件数	%
0 時～	30	9.9%
2 時～	23	7.6%
4 時～	6	2.0%
6 時～	8	2.6%
8 時～	28	9.3%
10 時～	36	11.9%
12 時～	23	7.6%
14 時～	34	11.3%
16 時～	26	8.6%
18 時～	30	9.9%
20 時～	28	9.3%
22 時～	27	8.9%
不明・無記入	3	1.0%
合計	302	100.0%

相談者の年代は、「10 代」（10.6%）、「20 代」（29.1%）、「30 代」（13.9%）と、30 代以下が半数以上（54.0%）を占めており、他の相談と比べて若年層の割合が高い傾向となっている。

	強姦・強制わいせつ	
10 代未満	1	0.3%
10 代	32	10.6%
20 代	88	29.1%
30 代	42	13.9%
40 代	24	7.9%
50 代	17	5.6%
60 代	9	3.0%
70 代以上	1	0.3%
不明・無記入	88	29.1%
合計	302	100.0%

「強姦・強制わいせつ」の相談のうち、約 7 割が、知っている人からの被害であった。

知っている人からの被害のうち、「親（義理含）」が最も多く 33 件、次いで「職場関係者」が 30 件、「交際相手・元交際相手」23 件と続いている。



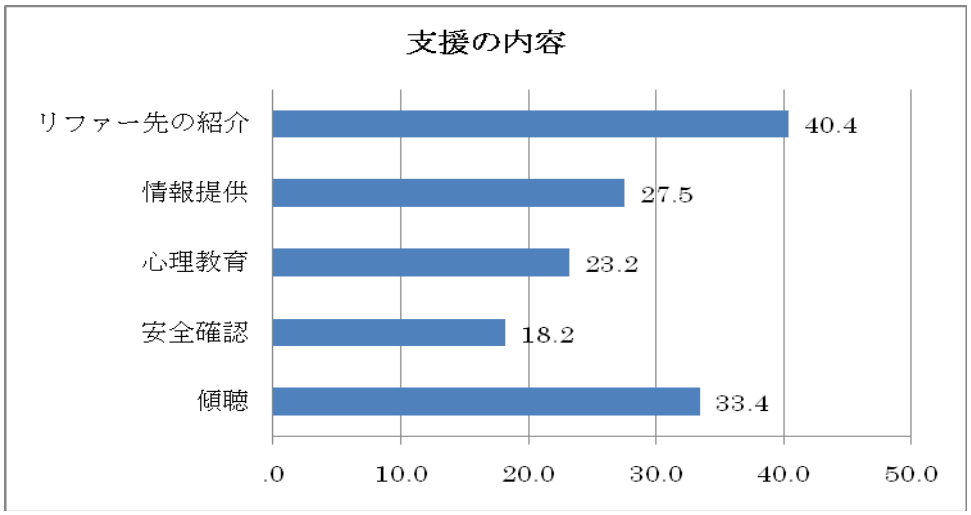
加害者との関係	件数	%
配偶者等（元配偶者、事実婚の相手含む）	15	7.0
交際相手・元交際相手	23	10.8
家族（①）	58	27.2
その他（②）	99	46.5
不明・無記入	18	8.5
合計	213	100.0

①の内訳	件数
親（義理含）	33
兄弟（義理含）	10
上記以外の親族	15

②の内訳	件数
職場関係者	30
学校関係者	13
地域の関係者	7
その他	49

「強姦・強制わいせつ」の相談について行った支援内容は、「リファー先の紹介」が最も多く、次いで「傾聴」、「情報提供」となっている。

（%は N=302 を分母としたもの）



リファー先は、「男女共同参画センター」が 27 件、「法テラス」24 件、「性暴力被害者支援民間団体」が 20 件、「警察相談窓口」が 10 件であった。

	度数	%
男女共同参画センター	27	22.1%
配偶者暴力相談支援センター	5	4.1%
婦人相談所	3	2.5%
福祉事務所	2	1.6%
配偶者暴力被害者支援民間団体	1	0.8%
ステップハウス	1	0.8%
性暴力被害者支援民間団体	20	16.4%
急性期の性暴力被害者へのリファー先病院	6	4.9%
児童相談所・子ども家庭支援センター	4	3.3%
保健所	1	0.8%
精神保健福祉センター	1	0.8%
いのちの電話	1	0.8%
カウンセリングルーム等	4	3.3%
警察相談窓口	10	8.2%
犯罪被害者ホットライン	1	0.8%
法テラス	24	19.7%
弁護士会	3	2.5%
弁護士会犯罪被害者専用相談窓口	1	0.8%
犯罪被害者支援センター	1	0.8%
セクハラ相談窓口	1	0.8%
労働組合・女性ユニオン	1	0.8%
その他	8	6.6%
不明・無記入	20	16.4%
合計	122	100.0

４　男性相談の集計と分析

男性相談は無言電話などが多く、実際に相談実施に至ったものは 565 件で、男性相談全体の約７割であった。

男性相談の受理件数は 776 件で、うち「ＤＶ」は 174 件、「ＤＶ以外」は 602 件となった。

男性相談内訳	相談件数	%
ＤＶ	174	22.4
ＤＶ以外	602	77.6
合計	776	100.0

（１）ＤＶ被害の相談について

「ＤＶ相談」総件数 174 件のうち、「無言・いたずら・苦情等」を除いた相談件数は、166 件となった。以下は、相談のみの件数（166 件）について分析する。

相談者の年代は、「30 代」と「40 代」が中心である。

相談者年代	度数	%
10 代未満	1	0.6
10 代	0	0.0
20 代	12	7.2
30 代	38	22.9
40 代	32	19.3
50 代	10	6.0
60 代	8	4.8
70 代以上	4	2.4
不明・無記入	61	36.7
合計	166	100.0

暴力を振るわれた継続年数は、1 年未満と１～3 年が多くなっており、3 年未満が全体の 28.0%となった。

	度数	%
1 年未満	22	13.3
1～3 年	24	14.5
～5 年	12	7.2
～10 年	14	8.4
～15 年	7	4.2
16 年以上	7	4.2
不明・無記入	80	48.2
合計	166	100.0

暴力の様相については、「精神的暴力」が 108 件（65.1%）で最も多く、「身体的暴力」が 63 件（38.0%)、「性的暴力」が 21 件（12.3%）となっている。

	身体的		精神的		性的	
	度数	%	度数	%	度数	%
なし	101	60.8	56	33.7	143	86.1
あり	63	38.0	108	65.1	21	12.7
不明・無記入	2	1.2	2	1.2	2	1.2
合計	166	100.0	166	100.0	166	100.0

これまでの支援経験については、166 件中、13 件（7.8%）が支援を受けた経験がある。

支援経験	件数	%
あり	13	7.8
なし、不明・無記入	153	92.2
合計	166	100.0

主訴について、半数以上が「話を聞いてほしい」87 件(52.4%)というものであり、「情報がほしい」68 件（41.0%）とあわせると 93%にのぼった。実際に「来るべき時に備えて準備したい」とするものは 4 件、「今すぐ避難したい」とするものは 1 件のみであった。

相談の主訴	度数	%
今すぐ避難	1	0.6
来たるべき時に備えて準備したい	4	2.4
情報がほしい	68	41.0
話を聞いてほしい	87	52.4
その他	1	0.6
不明・無記入	5	3.0
合計	166	100.0

支援の内容は、「リファー先の紹介」が最も多く、「情報提供」「傾聴」と続いた。

電話相談の中での対応	件数
傾聴	47
安全確認	6
心理教育	12
情報提供	51
リファー先の紹介	64

リファー先は、「男女共同参画センター」が 20 件、「配偶者暴力相談支援センター」が 11 件、「精神保健福祉センター」が 8 件、「法テラス」が 7 件であった。

	度数	%
男女共同参画センター	20	31.3%
配偶者暴力相談支援センター	11	17.2%
婦人相談所	1	1.6%
福祉事務所	1	1.6%
児童相談所・子ども家庭支援センター	2	3.1%
保健所	2	3.1%
精神保健福祉センター	8	12.5%
カウンセリングルーム等	2	3.1%
警察相談窓口	3	4.7%
法テラス	7	10.9%
弁護士会	2	3.1%
ハローワーク	1	1.6%
男性相談	2	3.1%
その他	2	3.1%
不明・無記入	0	0.0%
合計	64	100.0

（２）ＤＶ以外の相談について

「ＤＶ以外」の総件数は、602 件となった。総件数 602 件のうち、「無言・いたずら・苦情等」を除くと 399 件となる。

受理項目	度数	%
相談	399	66.3
無言・いたずら・苦情等	203	33.7
合計	602	100.0

相談内容は、「その他」を除き、「強姦・強制わいせつ」が最も多く、次いで、「セクハラ」「ストーカー行為」となっている。

相談分野	度数	%
強姦・強制わいせつ	70	17.5
セクハラ	8	2.0
ストーカー行為	4	1.0
その他	317	79.4
合計	399	100.0

「その他」が一番多いが、「その他」とは以下のようなものであった。

・加害に関する悩み
・性にまつわる悩み・不安
・夫婦関係・男女関係に関する（暴力以外の）悩み・不満・愚痴
・日常生活にかかわる不安・問題・悩み相談（半数程度）
・うつなど精神科領域の病気を抱えていてつらい、死にたい・・・など
・障害を持ちながらの生活で不安、差別がつらい、など
・社会や会社への不満を聞いてほしい、など
・パープルダイヤルに関する問い合わせ

５　外国人相談の集計と分析

外国人相談の受理件数は 544 件で、うち「ＤＶ」は 158 件、「ＤＶ以外」は 386 件となった。

外国人相談内訳	相談件数	%
ＤＶ	158	29.0
ＤＶ以外	386	71.0
合計	544	100.0

（１）　ＤＶ相談

「ＤＶ相談」総件数 158 件のうち、「無言」を除いた相談件数は 156 件となった。以下、相談のみの件数（156 件）について分析する。

6 言語のうち、タイ語が 47 件(30.1%)と最多で、順に英語、タガログ語、日本語となっている。

相談使用言語	度数	%
英語	25	16.0
タガログ語	24	15.4
タイ語	47	30.1
中国語	16	10.3
韓国語	2	1.3
スペイン語	8	5.1
日本語	24	15.4
不明・無記入	10	6.4
合計	156	100.0

相談経路は、「紹介された」とするものが 59 件（37.8%）となり、「自分で見つけた」とするものを大きく上回った。紹介された場合の相談経路（紹介もと）は、民間団体や知人・友人が多くなっている。

相談経路	度数	%
紹介された	59	37.8
自分で見つけた	38	24.4
不明・無記入	59	37.8
合計	156	100.0

相談経路「紹介された」の内訳（紹介もと）	度数	%
役所	6	10.2%
配偶者暴力相談支援センター	2	3.4%
民間団体	13	22.0%
友人	17	28.8%
知人	19	32.2%
その他	2	3.4%
合計	59	100.0

主訴について、他の相談で割合が高い傾向にある「話を聞いてほしい」の割合が 7.1%と低くなっている。

相談の主訴	度数	%
今すぐ避難	15	9.6
来たるべき時に備えて準備したい	15	9.6
情報がほしい	40	25.6
話を聞いてほしい	11	7.1
その他	2	1.3
不明・無記入	73	46.8
合計	156	100.0

（２）ＤＶ以外の相談について

「ＤＶ以外」の総件数は、386 件となった。総件数 386 件のうち、「無言・いたずら・苦情等」を除くと、316 件となる。使用言語は、日本語、タイ語、タガログ語の順となっている。

英語	16	5.1
タガログ語	44	13.9
タイ語	73	23.1
中国語	23	7.3
韓国語	5	1.6
スペイン語	4	1.3
日本語	119	37.7
不明・無記入	32	10.1
合計	316	100.0

相談者は、女性が約 8 割となったが、約 2 割が男性の相談となった。

性別	度数	%
女性	252	79.7
男性	62	19.6
不明	2	0.6
合計	316	100.0

なお、「ＤＶ以外」の相談内容については、今後、個別の相談対応表の分析が必要である。